グリーンレポート

活き活き　安全安心　まちづくり　NO. 2

発行所　活緑クラブ
南丹市議会議員
八木　眞　高橋芳治
矢野康弘　藤井日出夫
川勝儀昭　松尾武治

平成18年度　一般会計補正予算（第３号）総額７億４８百万円・特別会計補正予算総額７億４７百万円、１０条例の改正案等が、賛成多数で可決成立

税制改革による地方税の増収「２億７１０４万円」や、地方交税付税「７億４４９２万円」など歳入増により、基金からの繰入額が「５億８５４９万円」減額、歳出では財政調整基金積立金「２億４８８９万円」、災害復旧費「１億２３５０万円」園部・城南保育所の改修費「８２４３万円」など。

南丹市議会では平成17年度の決算審査を行っています。決算審査は、17年12月31日までに行い、以降の南丹市に関わるものは、所管の事項毎に委員会で、予算の使い方が適切であるか否かについて審査を行います。

丹波路も秋たけなわで、野山の木々も黄色く色づき紅葉のシーズンが到来しました。

遅くなりましたが、活緑クラブのグリーンレポートの第2号をお送りいたします。

今、農業では品目横断的経営安定対策の実施に向けての問題、教育問題ではいじめによる子どもたちの苦難、履修不足、教育基本法の改正、又国際的には北朝鮮の核実験と拉致問題、安倍内閣発足以来多くの問題が山積しております。それぞれの立場で解決に向け、努力されております。身近なところでは、私たち活緑クラブが、地域にねざした農業施策の提言や、学校教育、社会福祉、住環境の整備をはじめ道路網の整備等各町中心市街地の活性化について、住民の皆さんの声を、一般質問等でだしました。

美山町では、保育所が5カ所ありますが、住民の皆様方のご理解とご協力で統合の話し合いがまとまったと報告がありました。今後は、保育の質を高める努力が、行政側に求められます。

決算審査では、旧町の中に補助目的や、受け入れ団体の事業計画が全く示されていないにも関わらず、補助金が交付されているものもあり、きびしく指摘をしました。市民の貴重な税金の使われかたとして不適切なものでもありました。12月議会の冒頭で行われる決算認定にも会派として発言をいたします。又、障害者自立支援において、京都府特に南丹市においては、障害者二級の方々は、一割の自己負担を五〇パーセント軽減していますが、さらなる改善をすすめなければなりません。

今後、決算委員会で議論を戦わせてまいります。

まずは、各議員の活動を読んでいただきますようお願いいたします。

セミナーに参加

元内閣総理大臣秘書官、飯島　勲先生をお招きした「衆議院議員　中川やすひろ先生　政経セミナー」が、京都市内で開催され、活緑クラブ全員が参加しました。

12月　定例会予定

11月28日	議会運営委員会
12月5日	定例会開会
11日	一般質問
	議会運営委員会
12日	一般質問
13日	一般質問
	常任委員長会議
14日	常任委員会
15日	常任委員会
18日	常任委員会
19日	議会運営委員会
21日	本会議

ごあいさつ

活緑クラブ　高橋芳治

4町が合併をして早いもので11ヶ月が経過します。活緑クラブの強力な推薦のもと、議長という要職に就任させていただき、改めて責任の重さに身を引き締め、議会の活性化と、南丹市の均衡ある発展を目指して邁進する所存ですのでいっそうのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

旧4町において様々な課題が在るところでありますが、南丹市の市民に軸足を置いた議会を目指さなければと考えております。

緊急な課題に、行財政改革がありますが、住民の皆様に不便を感じさせない行政のスリム化、大きく膨れあがった財政規模の見直しがあります。一方では、一体感のある南丹市を構築するにはどのような施策が必要か、また旧町の施策でもバブル期の施策は、見直すことも議会の使命と考えています。

今、議会では17年度の決算審査を行っていますが、合併を目前としたかけ込み的な補助金交付の手法等、いささか懸念するところもありますが、住民の貴重な税金として、有効かつ効率的な活用が求められます。

このような気風を南丹市に引き継がないことが議会の重要な役割でもあり、一体的な南丹市を構築する礎になると考えます。

私の所属する「活緑クラブ」とともに、皆様の変わらないご支援を賜りますようお願い申し上げます。

活緑クラブ　代表質問

会派代表　八木眞議員

質　問
財政の健全化は住民の理解で

厳しい南丹市の財政事情を数値で伺う。また、行政改革推進委員会で財政再建の対策が行われているのか、財政の健全化に向け、住民の理解を得ながら、行政関係総ぐるみで取り組まなければならないが市長の見解を伺う。

市長の答弁
政健全化計画を策定し財政構造の改善を

財政調整基金及び減債基金の残高は、17年度末で40億円であったが、18年度末見込みで約21億円となる。一方、地方債残高は17年度末見込みで約355億円、それが平成18年度末見込みでは約363億円と増加傾向になっている。極めて厳しい深刻な状態で、財政の健全化の動きを強めていかなければならないと認識している。

財政力指数　0・307
自主財源に乏しく、地方交付税に依存せざるを得ない体質、類似の市町村と比較して大きく下回っている。

経常一般比率　108・0
経常収支　90・0
義務的経費（給料等）九〇パーセント以上となり、投資的経費が少なく、財政に弾力性が無い。事業の集合化が必要である。

公債比率　17・1
六月時点で二〇パーセントを越えていた。順延が行われた可能性があるのか?もしくは返債か?

起債制限比率　11・0
起債（借金）ができにくい。

質　問
外郭団体への補助金について

17年末4町合併を目前に、園部町が・農業開発公社・園部町振興公社・女性の館に対して3億9000万円の補助金を交付されました。このことは何度も質問がされているが、再度何に基づいて、どのような目的でなされたのか。

市長の答弁
外郭団体へ適切な指導を

園部町の補助金はご指摘のような状況になっている。質問の主旨は、国際学園都市センターだというふうに理解している。

17年度の決算の中での措置と承知している。今後18年度の事業執行の中で適正な処理をされるものと考えている。また、市としもそのように指導する。

質　問
遊休土地の処分でスリム化を

市有財産で遊休化している不良資産は、どのようになっているか。また、利用の目的のない市有地の売却で財政の健全化を図る必要があると思うが、市長の見解を問う。

市長の答弁
市有財産の不用部分は売却を

南丹市のもっている市有財産は、積極的な活用や、また不用な部分については売却をしていかなければならないというふうに認識している。

一般質問要旨

藤井日出夫議員

五ケ荘小学校の跡地活用

五ケ庄小学校の跡地活用は、地元の皆さんと意見を交わし、地元との合意で進める必要があるが見解を伺う。

答弁　地域の意見を踏まえ学校跡地問題は、地元の皆様方のご意見を十分踏まえながら、市当局としても教育委員会と連携をとりながら検討を進めていきたい。

府道等の整備は

住民要望として府道園部平屋線、通称立壁の改修計画、府道京都日吉美山線、鏡坂峠の改修計画、国道477号の改修は京都府事業ですが、道路の整備計画と関連して、府の支援計画と実施時期について、市長の認識を伺う

答弁　道路整備は重要な課題と認識している。府道園部平屋線「たてかべ」の改修は旧町からの要望であり、引き続き強く要望して早期実現に努める。合併による新市の一体性の確立のためには、鏡坂峠の開削、そしてトンネル化は重要な課題であるという基本的な認識を持っている。京都府、国とも要望、また連携を強めながら早期実現を目指して努力していきたい。

矢野康弘議員

新駅の設置を求める

園部インター周辺では、内林地区土地区画整理事業がほぼ完成し、分譲が始り、民間事業者による集合住宅の建設や日用雑貨品などの商業施設や娯楽施設が進出している。新光悦村の伝統工芸の工房の完成で、人の動きは増加する。更に複線電化が完成すれば、電車の本数も増え短時間で京都へ行けるようになる。園部まで車できて電車で通勤や、通学する者が増えるが園部駅周辺には駐車場が少ない。これに対応し園部北部地区の発展を考えると山陰線園部・船岡間に駐車場がある新駅を設置する必要があるが市長の考えを伺う。

答弁　新駅の設置については、原則全額地元負担での事業を執行しなければならないと聞いている。指摘があった新光悦村の分譲、また内林町の土地区画整理事業による住宅地の分譲、また広域農道の開通など地域にとって発展する要因がある。今後、必要な財政負担額を含め、検討課題としていきたいとい考えるが、現状の財政状況等を考えると積極的に今いつまでにということはできない。

川勝儀昭議員

八木駅西土地区画整理事業の現状と今後の見通

関連事業で南丹市都市計画道路の八木環状線の全体的な計画と府道長谷八木線、東所川の改修計画等がどのよう進めらるのか市長に伺う。

答弁　八木駅西土地区画整理事業は、事業実施区域は決定された。事業実施で全員の同意が得らていないが、事業計画書（案）を検討している。また、当該事業計画区域では、一級河川東所川河川改修事業及び都市計画道路八木環状線道路改良事業等一体的な整備を図るため、各関係機関と協議を進めている。

国の農業施策に対する南丹市の対応は

答弁　認定農業者の経営規模は、京都府との協議で認定農業者3・1ha、法人15・6haに緩和された。この制度にのれる農業者また組織には、積極的に応援していきたい。

南丹市の財産でもある農地・山林の保全は厳しい課題であるが地域力により、保全が図られ、農業・林業の振興が図られておるこの現実を十分に南丹市としても受け止め、この豊かな財産を守り地域産業の振興を図る観点からも努力したい。

松尾武治議員

保育環境の整備と子育て支援の充実は

求めていたが、園部保育所は増築され、城南保育所の0歳児保育も整備される。現状の0歳児保育は、育児休暇明けの保育が主体で、定員の問題や雇用形態によっては利用できない。就労を希望する女性全てが安心して預けられる保育体制の充実について、市長の見解を伺う。

答弁　0歳児保育の実施は保育所の設備や運営面において保護者の意向を十分踏まえた上で、慎重に検討・協議を重ねる必要がある。園部地域での0歳児保育に対する希望は、母親の就労の増加、また核家族化の進行等のなかで増加している。保護者からのご要望、そして子育て支援、就労保障の観点を十分勘案し、乳児保育の基盤整備の検討を行う。

小中一貫教育は特区での先進事例があるが南丹市の認識は

答弁　中学校ブロックごとで保・幼・小・中の連携接続を図りながら、学習や指導の体系化を目指し、充実した教育となるよう取り組みを進めている。当面このことを中心に小中一貫教育的な状況になるよう保・幼・小・中の連携接続の充実を期する。